

新春対談 「これからの高山市を語る」

― 議会での討論が楽しみですね。
市長 議場傍聴席やケーブルテレビの中継などに、市民の皆様が釘付けになれるように、私たちががんばります。

飛驒地域が一丸となつて

― 昨年は国内で震災自粛ムードが漂いましたが、当地から元気を発信しようということで、「がんばろう東日本」の横断幕を掲げたり、イベントやお祭りを通常どおり実施したりしましたね。

市長 昨年は震災や原発事故など思いもよらぬことが幾つも起こりましたが、そのたびに市民の皆様は団結し助け合つて、自分たちの元気を被災地に送り込もうと、一つになったと思います。

震災を契機に、被災地を思いやる気持ちを大事にしつつ、その考え方を土台にして、元気をどんどん出していくことは大事だと思っています。

― 高山だけじゃないですよ

市長 そうです。飛驒地域全体から元気を発信していくことです。

― 昨年は飛驒首長連合に続き、議長も飛驒地域議長サミット(※)を開催し、地域の課題解決に向けて3市1村が一丸になった取組みを



スタートさせましたね。

議長 ええ。私たち議員も一丸となる仕組みを立ち上げました。今や個々で課題解決をしようという時代じゃありません。農業や観光など、お互いが情報を交換し、知恵を出し合うことが求められています。直近ですが3市1村の議員が一堂に会し、T P P(※)の勉強会もしたところ。地域みんなが良くなる方策を議会としても精一杯検討しているところです。

― 飛驒地域には高齢化や過疎化といった共通の課題も多くありますので、一丸となつて取り組むことの意味は大きいですよ。

市長 そうですね。自分のところだけ良ければいいという時代は終わりました。自分たちの足りない部分を助けていただく、あるいは

相手の足りない部分を助けてあげたりと。やはり飛驒は昔から一つなんですから。

議長 そうですよ。ばらばらじゃないんですから。一体感を持つて密度を濃くして。いろいろな匂いが一体になると更にもっといい匂いが生まれます。

市長 飛驒地域が一丸となることで、いい匂いをどんどん醸し出していきたいですね。



市町村合併から 8年目に突入

― 平成17年の市町村合併から7年が経過し、今年は8年目に突入します。合併特例(※)の平成26年度も間近に迫り、市の第七次総合計画後期計画(※)も同様に平成26年度までとなっていますが、そのあ

飛驒首長連合 高山市・飛驒市・下

呂市・白川村の飛驒地域3市1村の市町村長による連携で、平成23年1月に発足。国や県への要望や東日本大震災の被災地支援、飛驒牛支援など、地域共通の課題解決に向け活動しています。

飛驒地域議長サミット 同じく3

市1村の正副議長による連携で、平成23年10月に発足。昨年12月にはT P Pに関する勉強会を域内の議員全てに呼びかけ開催しました。

T P P 太平洋周辺の国々がヒト・モノ・カネの移動を自由にしようという国際協定で、環太平洋戦略的経済連携協定などと訳されます。

合併特例 合併後10年間、地方交付税の優遇措置が認められたり、新市建設事業に充てるための有利な合併特例債が認められる優遇措置のこと。高山市は平成27年度から地方交付税が段階的に縮減されます。

総合計画 長期的な視野から市の将来像を描き、その実現に向けて計画的な行財政運営を行うため、まちづくりの方向性を総合的・体系的にまとめた自治体の最上位計画。高山市では計画期間を10年として定めています。